

交通費精算と出退社管理

「スイカ」で同時に

1日2回
かざすだけ

クラウドサービスを手掛けるチームスピリット(東京・千代田、荻島浩司社長)は、東日本旅客鉄道(JR東日本)の「スイカ」など交通系ICカードの利用履歴を読み取り、自動で交通費の精算ができるクラウド型システムを開発した。出退社の際にICカードを専用機に読み取らせることで勤怠管理と経費精算を同時に行える。29日から同社の既存サービスに新機能として追加する。

チームスピリット、クラウド提供

スイカや首都圏私鉄の「パスモ」など交通系ICカードをタイムカードとして利用する。利用者は1日2回、カードを専用読み取り装置にかざすだけで出退社の時刻を記録。その際に鉄道の履歴も併せて読み込む。データはチームスピリットが提携する米セールのクラウド環境に蓄積され、勤務時間とともに経路や交通費を算出し、自動的に精算する。

これまでICカードの利用履歴から交通費を精算する仕組みはあった。だが、カード内に保存できる件数が20件までと制限されているため、カードの読み取り作業を忘れるとデータが欠落してしまう課題があった。今回はタイムカードとして利用し、出退社の際に交通費の履歴を更新。保存忘れを防ぐ。

チームスピリットは既に勤怠管理、給与計算、プロジェクト進行管理な

ど企業向けクラウドサービスを提供している。今既存メニューも含む次回、新メニューとして交通費精算の機能を加える。初期登録料が15万円、堅企業を中心に年間30回、サービスの魅力を高(税抜き)、1ユーザーあたりの月額料金が600円。ICカードの読み取り装置は別途必要。中堅企業を中心に年間30社との契約をめざす。